資　料

看護学生の認識するケアリング要素に関する文献検討

佐　原　玉　恵[1)]，細　川　つや子[2)]
徳島文理大学保健福祉学部看護学科

要　旨　本研究の目的は，臨地実習における教育方法を検討する基礎的資料とするために看護学生が「ケアリング」をどのように認識し，捉えているのか文献検討をとおして明らかにすることである．

方法は医中誌 web を使用した．看護学生に関するケアリング研究を見るために「ケアリング」and「看護学生」とし，検索期間は2003年から2012年とした．

キーワードを「看護学生」and「ケアリング」とし，検索した結果58件が抽出された．この中で「ケアリング」の内容について論じられている18件を分析対象とした．

その結果，まず学生が講義・演習の中で気づいたケアリング要素は，対象者にとって重要な内容であった．講義をする教員のケアリングの視点が学生に伝えられており，ケアの対象者の特徴をふまえたケアリング内容が抽出されていた．次に学生が学生－教員間で認識していたケアリングの内容は，学生が教員に対して求めるケアリングの内容であった．特に臨地実習においては教育として教員の通常の行為であっても，学習の進行や学びの速度，自分たちの理解度，性格やタイプに合わせた支援を受けるとケアされていると認識していた．最後に臨地実習での対象者との関わりにおけるケアリングについて学生が認識している内容は，ケアリングの基本になる内容であった．また対象者が設定されていることで，具体性を帯びており対象者の生活を中心にケアを考えることができていた．さらに家族へのケアリングも重要であると認識されていた．

キーワード：ケアリング，看護学生，臨地実習

はじめに

臨地実習は看護学生にとって，非常に有意義な学習の場である．学生は既習の知識や技術を基本とし，対象者に直接的に関わることで実践的な能力を身につけていく．さらに対象者へのケアリングを理解し，実践できることは非常に重要なことである．しかし，病院という社会の場に一歩踏み出し，実際に入院している対象者に看護を展開するというのは非常にストレスの多い状況であると推測される．また学生は，社会的な体験も少ないことから問題解決能力やソーシャルスキル能力も乏しいことが予想される[1-2)]．したがって基礎教育に関わる看護教員は，知識・技術の習得のための支援はもちろんのこと，学生が将来にわたりケアリングの実践者として成長していくための支援は欠かすことはできない．

そこで，この研究の目的は，臨地実習における教育方法を検討する基礎的資料とするために看護学生が「ケアリング」をどのように認識し，とらえているのかを文献検討をとおして明らかにすることである．

研究方法

1．研究対象

医中誌 web を使用した．看護学生に関するケアリング研究を見るために，「ケアリング」and「看護学生」とし，検索期間は2002年から2012年とした．

2013年10月２日受付
2014年１月28日受理
別刷請求先：佐原　玉恵，〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示180
徳島文理大学保健福祉学部看護学科

2．分析方法

看護学生に関するケアリングの研究について，学生がケアリングを認識した学習の状況やケアリングの対象によって分類した．文献に記載されている学生が認識したケアリングに関する内容を抽出しケアリングの理解について検討をした．

結　　果

キーワードを「看護学生」and「ケアリング」とし2002年から2012年で検索した結果58件が抽出された．この中で「ケアリング」の内容について論じられている18件を分析対象としたところ，以下の内容のものに分類できた．

1）学生が講義・演習の中で気づくケアリング
2）学生－教員間の関わりにおけるケアリング
3）臨地実習での対象者との関わりにおけるケアリング

1．学生が講義・演習の中で気づくケアリング

文献数は３件であった（表１）．

山本[3]は，老年看護学概論履修後に看護学生がケアリングの意味として捉えた内容を学習シートの記述より分析した．その結果，学生がケアリングとして捉えた内容は「理解しようとする心」「人間として尊重した看護」「良好な人間関係を築くこと」「苦痛緩和」「環境」「対象者が前向きになれる看護」「患者とともに成長する」「高齢者の尊厳を大切にする」「愛と感謝」「全人的理解」「その人らしさを支えること」「生き生き暮らせるための自立支援」「高齢者を取り巻く家族や専門職間の調整」「高齢者とともに成長」であった．また中澤[4]は，看護コミュニケーション演習後の課題レポートを分析した．その結果，ケアリングに関して学生が有意義であると捉えた内容は「人間関係形成力」「人を思う力」「人間的成長」の３つのカテゴリーであった．さらに荒井[5]は多次元共感測定尺度を用いたケアリングに関する研究を行った．その結果，ケアリングに関して学生が有意義であると捉えた内容は「相手との関係」「看護との関係」「自分との関係」「共感の取得」であった．

以上より講義の中で気づいた内容は対象者にとって重要な内容であり，対象者が具体的に設定されていないにもかかわらず比較的具体性を見いだせる内容であった．特に「高齢者の尊厳を大切にする」「その人らしさを支えること」「愛と感謝」「生き生き暮らせるための自立支援」「高齢者を取り巻く家族や専門職間の調整」については高齢者へのケアの特徴が抽出されていた．つまり講義をする教員のケアリングの視点が学生にしっかり伝えられていた．したがって演習においてもケアリングの視点を持って事前学習し，演習を展開することでさらにケアリングの認識が深まるといえる．

2．学生ー教員間の関わりにおけるケアリング

文献数は７件であった（表２）．学生－教員間のケアリングについて渡部[6]は，看護学生が指導者および教員から受けるケアリング体験で，ケアに関する白木の文献[7]から７項目抽出しアンケートを作成し看護学生２年生，３年生を対象に教員から受けるケアリング体験の調査を行った．その結果，学年間に差はなく，否定的ケアリング体験より肯定的ケアリング体験の方が多かった．また，田村[8]は，臨地実習でのケアリング教育において

表１．学生が講義・演習の中で気づくケアリングに関する文献（３件）

	タイトル	著者	出典	目的	方法	結果
1	老年看護学概論履修後に学生が捉えた「ヒューマンケアリング」の意味	山本　浩子 仲村もとゑ 森川千鶴子 他	日本看護福祉学会誌，17(２)，147-157，2012	老年看護における「ヒューマンケアリングの意味」についてどのように捉えたか明らかにする．	2009年度看護２年生133名，2010年度の看護２年生153名を対象に，学習シート（レポート）の内容を分析した．	学習シートの回収率は94.7%であった．ケアリングの意味は，2009年では，「理解しようとする心」「人間として尊重した看護」「良好な人関係を築く」「残存能力を生かす看護」「知識・技術に基づいた苦痛緩和の看護」「高齢者を取り巻く環境への視点」「対象者が前向きになる看護」「患者とともに成長する」であった．2010年では，「高齢者の尊厳を大切にする看護」「愛と感謝の気持ちを大切にする看護」「高齢者の全人的理解」「その人らしさを支える看護実践」「生き生きと暮らせるための自立支援」「高齢医者を取り巻く家族や専門職間の調整」「高齢者とともに成長」であった．
2	ヒューマンケアの心を育む「看護コミュニケーション演習」の試み課題レポートの分析にみる看護学生の獲得（第１報）	中澤　明美 管沼　澄江 西田　陽子 他	東都医療大学紀要，１(1)，7-14，2011	「看護コミュニケーション演習」の授業で学生が獲得したものは何か明らかにする．	「看護コミュニケーション演習」授業終了学生96名の課題レポートの内容を分析する．	「人間関係形成力」「人を思う力」「人間的成長」の３つのカテゴリーが抽出された．
3	多次元共感測定尺度を用いたケアリングに関する研究（第２報）人間関係の側面（共感）の経時的変化とケアリングに与える要因	荒井　晴美 大道　玲子 嘉山　悦子 他	三育学院短期大学紀要，37，43-60，2008	看護の勉強を開始して２年間経過した学生の人間関係の側面（共感）の実態を調査し，変化を縦断的に検討したケアリングへの影響が予測される共感体験や感動体験の内容についても検討した．どのような体験が有意義と感じているか．	看護学生２年生を対象に多次元共感測定尺度を使用し，人間関係の続面に付いて調査を行った．	ケアリングに影響を与える要因は「人間関係」「看護」「自己の変化」「宗教」「達成感・充実感」などから有意義と感じていた．学生が捉えた内容は「相手との関係」「看護との関係」「自分との関係」「共感の取得」であった．

教員と学生の相互行為場面について分析している．その結果，教員と学生の相互行為場面は「看護の手がかりを見つけ出す関わり」「看護を推し進める関わり」「看護を意味づける関わり」の３つのカテゴリーが抽出された．教員は看護実践のモデルを見せており，看護とは何かを学生に語り伝えることがケアリングを育む関わりであることが示唆された．山田[9]らは，「看護学生の認知する臨地実習での効果的・非効果的な指導者の関わり」の中で，臨地実習における教員や臨地実習指導者のどのような言葉や態度が学生の成長を助けるもしくは妨げになるかについて明らかにした．その結果，学生の成長を助ける関わりとして，「意欲を高める言葉と態度」「思考と実践を高める教授技術」の２つが抽出された．その内容としては，「学生の士気を高める」「学生の心情の受容」「学生

表２．学生－教員間の関わりにおけるケアリング文献（７件）

	タイトル	著者	出典	目的	方法	結果
1	看護学生が指導者および教員から受けるケアリング体験	渡部　暢子 菅原　晴美 工藤　真弓	秋田県看護教育研究会誌33　2008　12　7-12	臨地実習において，看護学生が指導者及び教員から受けるケアリング体験について調査し実習指導の方法を見いだす．	看護学生98名（２年49名３年49名）を対象とした．白木の文献の７項目に関する質問紙調査を実施．４段階のリカート法　自由記載の分析．	１．学年間の違いはなく，否定的ケアリング体験より肯定的ケアリング体験の方が多かった． ２．肯定的ケアリング体験では「学生の看護ケアや学習の成果を認め看護ケアの意味づけをしてほめるかかわり」と「自己の看護体験・看護観を話したり，示したりするかかわり」が２，３年生とも割合として少なかった． ３．肯定的ケアリング体験には指導者や教員が一方的でなく．学生と「対話」することが必要である．
2	臨地実習におけるケアリング教育－教員と学生の相互行為場面からの分析－	田村　美子	看護・保健科学研究誌　9（1）41-50　2009．06	臨地実習における教員と学生との相互行為場面から教員が学生に対して看護の気づきを促す関わりを明らかにし，臨地実習におけるケアリング教育を検討すること．	看護専門学校看護系短期大学，看護系大学の実習指導に携わっている教員６名，看護学生33名を対象に教員と学生の相互行為場面を観察，フィールドノートに書き，会話はテープに録音した．質的帰納的分析をした．	教員と学生の相互行為場面は「看護の手がかりを見つけ出す関わり」「看護を推し進める関わり」「看護を意味づける関わり」の３つのカテゴリーが抽出された．教員は看護実践のモデルを見せており，「看護」とは何かを学生に語り伝えることがケアリングを育む関わりであることが示唆された．
3	看護学生の認知する臨地実習での効果的・非効果的な指導者の関わり	山田　知子 堀井　直子 近藤　暁子 他	生命健康科学研究所紀要，7，13-23，2010	臨地実習における教員や臨地実習指導者のどのような言葉や態度が学生の成長を助けるもしくは妨げになるかについて明らかにしよりよい実習指導にむけた示唆を得ること．	４年生を対象に，効果的な指導，非効果的な指導について自記式質問紙調査を実施した．質的帰納的に分析した．	学生の成長を助ける関わりとして，「意欲を高める言葉と態度」（学生の士気を高める）（学生の心情の受容）（学生の自主性の尊重）（熱心な指導）「思考と実践を高める教授技術」（わかりやすい指導技術）（考えを導く指導）（学習環境の調整）（適切な評価）学生の成長を妨げる関わりは「学生の自尊心への配慮不足」（学生の心情を理解しない関わり）（学生を萎縮させる関わり）（不平等な関わり）（不誠実な態度）「思考と実践の発展を阻害する指導」（指導時間の調整不足）（タイミングの外れた指導）（一貫性のない指導）（問題解決できない指導）（一方的な指導）（臨地実習指導者－教員間の連携不足）であった．
4	臨地実習におけるケアリングを用いた指導のための教師の関わりの構造	高室いずみ	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録，31，107-114，2006	臨地実習におけるケアリングを用いた指導のための教師の関わりの構造を明らかにする．	臨地実習でケアリングが実施された１事例について指導場面の内観記録の分析と学生へのインタビューを実施した．	教師の関わりは以下の４要素であった．「対話」「学生の意思を尊重する」「環境を整える」「実践につなげること」「共に行動し，気づきを促進するモデリング」「学生の経験を看護の視点で振り返る「確認」．
5	看護学生が臨床指導者から受ける肯定的ケアリング体験	白木　智子	看護展望，30(３)，394-399，2005	臨地実習指導者と看護学生の関係性を学生が指導者から受けた肯定的ケアリング体験から明らかにする．	看護学生（167名）に自由記載アンケート調査をした．	肯定的ケアリング体験として，７つのカテゴリーが抽出された． １）看護の方向性をロモに考えられる丁寧な関わり ２）学生の看護ケアへの見守りと関心を示し，さりげない支援的な関わり ３）学生の看護ケアや学習の成果を認め看護ケアの意味づけをしてほめる関わり ４）やさしい，緊張をほぐす声かけや温かいと感じる対応の雰囲気 ５）親身に聴く共感的な関わり ６）共に考え行動する関わり ７）患者ケアのモデル，看護師性のモデルを示す関わり
6	臨地実習をとおして体験したヒューマンケアリングと課題	木村美智子 杉山　敏宏	ヒューマンケア研究学会誌，４（１），9-15，2012	臨地実習で患者との関わりをとおしてどのような経過でどういった点にヒューマンケアリング，ヒューマンケアリングに乏しい体験をしているのか明らかにする．	看護学部３年生で療養生活援助実習Ⅰを終えた学生14名，インタビュー調査を行った．	１．教員，臨床指導者の初期のアドバイスの仕方． ２．教員，臨床指導者のモデリングとしての行動が学生に影響を与えていた．以上の２点が，学生が臨地実習で体験するヒューマンケアリングの体験，ヒューマンケアリングに乏しい体験に深く関与している．
7	教員は学生にケアリング教育ができているのか－学生の立場から見た臨地実習における教員の関わりについて－	谷垣　静子 松田　明子 宮脇美保子	Quality Nursung, 9(12),34-39,2003	臨地実習における教員の関わりを学生はどのように捉えているかグループインタビューから明らかにする．	領域別実習を経験した看護系大学３年生12名についてグループインタビューを実施した．実習の中で教員から受けた指導支援で印象に残っていることや不安，よろこびや感動，疑問点について一緒に共有したり考えた経験があるかなどの質問をもとに実施した．	１．学生と共に在る． ２．モデリング． ３．教員の態度・雰囲気． ４．成長のための適切な助言． １）教員が共感的態度で学生と共に在ることが学生の成長を助ける上で効果的である． ２）教師（指導者）が示す実践におけるモデルから学生は看護についての考えを深めている． ３）教員の態度や雰囲気が学生との相互作用に影響している． ４）教員の適切な助言が学習者である学生の学びを左右している．

の自主性の尊重」「熱心な指導」「わかりやすい指導技術」「考えを導く指導」「学習環境の調整」「適切な評価」などが要素として明らかになった．さらに高室[10]は臨地実習でケアリングが実施された事例についてインタビュー調査を行っている．その結果，教師の関わりは「対話」「学生の意思を尊重する」「環境を整える」「実践につなげること」「共に行動し，気づきを促進する」であった．また谷垣[11]は学生が教員の関わりをどのようにとらえているかインタビューしている．その結果，「学生と共にいる」「モデリング」「聞きやすい雰囲気」「成長のための適切な助言」などをケアリングとして認識していた．木村[12]は，臨地実習での教員との関わりの中で何がヒューマンケアリングに影響を与えているか明らかにしている．その結果，「教員・臨床指導者の初期アドバイスの仕方」「モデリングとしての行動」が影響を与えていた．

以上より，臨地実習における学生が教員との関わりで気づいたケアリング要素は学生の学びを促進する内容が多かった．さらに学生が教員に求めるケアリング内容であると捉えた．特に学生－教員間の相互行為によるケアリング場面から学生と共に看護の手がかりを見つけ，推し進め，看護の意味づけをするという学びの中心になる場面が表現されていた．教員は学生に対して肯定的ケアリング，看護実践のモデルになること，学生の成長を助け，対話し，共にいるということが学生の学ぶ意欲を活発にし，ケアリングの認識を促進していた．

３．臨地実習での対象者との関わりにおけるケアリング

文献数は８件であった（表３）．

横山[13]は，４年課程１年次における基礎看護学実習Ⅰ終了後の調査から学生が意識している看護者に必要な姿勢・態度は，「優しさ」「思いやり」「尊重する」「信頼，包容力」のサブカテゴリーで構成される「相手を大切にする関わり」であった．

また谷口[14]らは，早期体験実習での学生の体験に着目し，看護学生が体験したケアリングの過程を明らかにした．その結果，看護学生のケアリング過程は「患者との葛藤を感じることがケアの妨げ」になっていた．学生自身の知識不足から患者からの質問に答えられないことで自分の未熟さを痛感し患者の前に立つことが苦痛になっていた．しかし学生は「患者に対して何ができるのだろうかと自分のことから患者へ関心を移転すること」で自然な感情に導かれてケアする気持ちになっていた．ケアの対象である「患者のリアリティを理解しようと関心を持ち続け患者と共有を実感できる時間を過ごすこと」「患者のリアリティを理解しても本当の意味でわかったと言うことにはならないがそのことを理解した上で患者を理解しようと努力し続けること」が重要であった．

また，池田[15]は，学生の手術室における看護の学びと看護者と対象者間での看護についての学びを明らかにしている．その結果，学生の学びは「手術室環境の理解」「対象者を尊重した関わり」「対象者の気持ちを理解した関わり」「対象者の成長を導く関わり」「短時間の対象者との関わり」「安全安楽のための関わり」「言語的コミュニケーションが困難である対象者との関わり」であった．古田[16]は，学生と患者間のプロセスレコードの内容を分析することでどのようなコミュニケーションの特徴があるのか明らかにしている．その結果，学生の「気がかりを覚えたことを明確にするコミュニケーション」が患者への積極的傾聴法を取り入れたケアリング行動につながっていた．学生の言動には「心の安定を促進させるケアリング」が見られた．また，水畑[17]は老人施設での学生と患者はどのような関係を築くかの調査で学生は「出会い」「葛藤と模索」「可能性の発見」「トランスパーソナルな関係」を経て関係を築いていくと報告している．磯邊[18]は訪問看護ステーションにおける実習で，学生は「生活様式にあった支援」「家族中心のケア」「じっくり話を聞く」「多職種との共働」「オープンな人間関係の構築」「家族への尊さを乱さないケア」が重要であると認識していたと報告している．

道廣[19]は，看護実践能力尺度を開発し看護大学４年生にヒューマンケアの基本に関する調査を行った．その結果，学生がヒューマンケアとして重要とする項目は「守秘義務」「人間の尊厳の重視」「人権擁護を基本に捉えた援助行動」であった．また菊池[20]は，ヒューマンケアの観点から退院指導をとおしての学生のケアの学びについて調査している．その結果，学生の学びは「人と人の生活に関する理解を大切にすること」「対象者のニーズを察知し支援するための人間関係の構築」「患者の人間性や意思を尊重すること」「思いに共感し，信頼し，希望を持つこと」「患者の人生の目標設定再構築の内容を一緒に考えていくこと」としている．

以上より，学生は看護者の姿勢として，ケアリングの基本になる内容を認識していた．また対象者が設定されていることでケアリングの内容がより具体性を帯び，ケアに役立てることができる内容になっていた．しかし対

象者の理解には基本的な知識が不可欠であった．知識を　得て理解が深まることで対象者の生活を中心にケアを考

表３．臨地実習での対象者との関わりにおけるケアリング文献（８件）

	タイトル	著者	出典	目的	方法	結果
1	「看護者に必要な姿勢，態度」に関する学生の意識－４年課程１年次における基礎看護学実習Ⅰ終了後の調査から－	横山　孝子 内山　久美 大澤　早苗	保健科学研究誌，２，87-94，2005	看護学を学習後，初めての臨地実習終了後における学生の「看護者に必要な姿勢・態度」についての意識をケアリングの視座から検討し看護基礎教育における職業的社会化への示唆を得ること．	入学後初めての臨地実習終了後の学生に「看護者に必要な姿勢や態度について自由記述式調査を実施し，記述されたものをKJ法で分析した．	１．学生が現段階で意識している看護者に必要な姿勢・態度は，優しさ，思いやり，尊重する，信頼，包容力，のサブカテゴリーで構成される「相手を大切にする関わり」カテゴリーに象徴されている．ノッディングスの「道徳的姿勢」に相応する傾向があった． ２．その一方で，実際の看護場面に接する体験終了後において，看護者の姿勢や態度に対する意識が低いと考えられる学生の存在も示唆された．
2	早期体験実習で看護学生が体験したケアリングの過程	谷口　清弥 前川　幸子	甲南女子大学研究紀要，3,143-150,2009	早期体験実習で一人の学生の体験に着目し，看護学生が体験したケアリングの過程を明らかにすること．	A大学看護学科の女子学生１名を対象に実習終了後，１ヵ月時にインタビューを行った．	看護学生のケアリング過程は １．患者との葛藤を感じることがケアの妨げになっていた． ２．学生は患者に対して何ができるのだろうかと自分のことから患者へ関心を移転することで自然な感情に導かれてケアする気持ちになっていた． ３．ケアの対象である患者のリアリティを理解しようと関心を持ち続け患者と共有を実感できる時間を過ごすこと． ４．患者のリアリティを理解しても本当の意味でわかったと言うことにはならないがそのことを理解した上で患者を理解しようと努力し続けること．
3	手術室における看護学生の学び	池田　奈未 百田　武司 植田喜久子	日本赤十字広島看護大学紀要，12，71-78，2012	１．手術室実習における学生の学びを明らかにする． ２．看護師と対象者の関わりについて明らかにする．手術室実習のあり方を検討すること．	３年～４年次に手術室実習を履修した学生に対し，実習記録，インタビューを行って分析した．	１．手術室環境の理解，手術に関連した影響，手術室看護師の役割，手術室看護師の関わり． ２．対象者を尊重した関わり，対象者の気持ちを理解した関わり，対象者の成長を導く関わり，短時間の対象者との関わり，安全安楽のための関わり，言語的コミュニケーションが困難である対象者との関わり．
4	プロセスレコードによる学生－患者関係の特徴と学生支援	古田　隆也	日本精神科看護学会誌，54（２），116-120，2011	臨地実習での学生－患者のコミュニケーションの特徴を明らかにする．	看護学生のプロセスレコードの内容を分析する．	１．学生の気がかりを覚えたことを明確にするコミュニケーションが患者への積極的傾聴法を取り入れたケアリング行動につながっていた． ２．学生の言動は心の安定を促進させるケアリングや感情フィードバックが高く非言語的コミュニケーションが低い傾向が見られた． ３．患者の言動は事実フィードバック，場面説明が高く,非言語的,受動的コミュニケーションの傾向が見られた．
5	臨床実習における学生と患者の人間関係形成におけるプロセス，ペナー及びワトソン理論による分析	水畑　美穂 菊井　和子	川崎医療福祉学会誌，15(１)，149-159，2005	老人施設での実習において学生が解決不可能な問題を抱えた患者とどのような関係を形成していくかそれをとおしてどのようにヒューマンケアを学習していくか明らかにする．	実習場面に参加観察後，学生に面接法を行った．	学生は患者と「出会い」「模索と葛藤」「可能性の発見」「トランスパーソナルな関係」を経てヒューマニスティックな人間関係形成の接点をつかみ真のニーズに触れる瞬間を得てそれを転換点としてトランスパーソナルな関係を築くことが可能になる．
6	訪問看護ステーション実習で学生が学んだこと	磯邊　厚子	京都市看護短期大学紀要34号　101-108　2009．07	対象の個々の生活を尊重した看護,人々の生活に根ざした看護とはどのようなものか検討する．	学生のカンファレンスの内容を分析した．	意思決定の尊重とQOL：生活様式に沿った患者中心の看護，介護者への支援．意思決定の見守り．専門的役割．生きがい，やりがい．生活の中での継続した看護：説明－予測－判断－実際の行為－評価という流れが重要　療養者と共に生きる家族への支援：生活様式にあった療養者中心，家族中心のケア，じっくり話を聞く．多職種との共働と役割分担：多職種の全人的な対応．在宅看護とヒューマンケアリング：オープンな気持ちが開ける人間関係の構築，誠実な態度，マナー．慣れ親しくなっても家族の尊さを乱さないケア提供者．
7	看護大学生の看護実践能力尺度の信頼性・妥当性の検討と実習形態ごとの比較（２）ヒューマンケアの基本に関する実践能力を中心に	道廣　睦子 中桐佐智子 谷田恵美子	インターナショナル Nursing Care Research ６（１），111-118，2007	看護師のヒューマンケアの基本に関する実践能力尺度の妥当性と信頼性を検討すること．	ヒューマンケアの基本に関する調査書を作成し，４年制大学学生に質問紙調査を行った．	281名分の調査票を回収した．看護実践能力尺度（ヒューマンケアの基本に関する実践能力）信頼性・妥当性が確認された．１番の高得点は，「守秘義務」であった．「人間の尊厳の重視」「人権擁護を基本に据えた援助行動」「利用者の意思決定を支える援助」は実習が進むにつれて高まったが「多様な年代への援助的人間関係」は４年次が地域実習と在宅実習であったため得点が下降した．
8	ヒューマンケアの観点から考える学生が実施した退院指導の学びと今後の課題－看護体験の意味づけ分析より－	菊池きよ美 菱刈美和子 奥山　啓子	共立女子短期大学看護学科紀要，７，29-38，2012	患者に実施した退院に備えての指導場面の体験した意味づけを質的に分析し学びの把握と今後の臨地実習指導の学習支援の示唆を得ること．	私立短期大学の看護学科３年生成人看護学実習最終日のケースサマリーの内容を質的に分析した．	退院指導の学びは １）人と人の生活に関する理解を時間的な流れも含め総合的に把握し，大切にしようとすること． ２）相手のニーズを察知し支援するための人間関係を築くこと． ３）関わりは患者の価値や意味を理解し患者の人間性や選択する意思を尊重すること． ４）患者の思いに共感し信頼し，希望を持つこと． ５）患者への指導の工夫として活動参加の機会，役割などを利用して人生の目標設定再構築の内容を本人の中に見いだして一緒に考えていくこと．

えることができ，さらに家族へのケアリングも重要であると認識されていた．

考　　察

1．講義・演習の中で気づいたケアリング要素

講義・演習でのケアリング学習やコミュニケーション演習などで事前に学習し，その内容をケアリングとしてどのように理解できたか振り返りをすることで，対象者が設定されていない状況であったとしてもある程度の理解は可能であるといえる．講義では，教員のケアリングの認識が学生に影響を与えると考えられるので，ケアリングの視点を持って講義し，演習することでケアリング理解が高まるのではないかと推測される．特にケアリング教育としてカリキュラムが構築されているとさらに効果的である[21]．したがって講義や演習での模擬患者やシミュレーション演習など実施する際にケアリング教育としての視点を入れることは臨地実習の場でのケアリングの認識を高めるには重要であると考えられた．

2．学生ー教員間の関わりにおけるケアリング

学生と教員間のケアリングに関する内容については学生が教員に対して求めるケアリングの内容であると考えられた．特に臨地実習での学生－教員間の相互行為場面では学生は教育方法の技術として教員の通常の行為であっても，学習の進行や学びの速度，自分たちの理解度，性格やタイプに合わせた支援を受けるとケアされていると認識していた．さらに学生と共にいること，対話すること，看護の手がかりを共に見つける，看護の意味づけをしていくなど教員－学生間の双方向のケアリングが行われていた．教員と学生は学習過程においてパートナーとなり，相互作用が起こることで，学生の学びの促進や臨地実習に臨める力になっていた[22]．一方，学生－教員間の関係性によっては否定的なケアリングが行われることもあり得る．したがって学生の学問的探求心が活発に行われるためには教育的な相互作用が必要である[23]といえる．教員自身がケアリングを十分認識し教育的に関わることでさらに学生の学びの効果が期待できるのではないかと考えられた．

3．臨地実習での対象者との関わりにおけるケアリング

学生が認識している看護者に必要な態度とは，「優しさ」「思いやり」「尊重する」「信頼，包容力」などケアリングの基本になるものであった．臨地実習後のケアリングの認識についてはより具体的で詳細に表現されていた．通常の看護技術であっても対象者に思いを寄せることで個別のケアリングになると考えられた．つまり学生は実習の中で対象者が設定されることで，自然に対象者へ関心が移転し，対象者に思いを寄せ，理解しようとすることで，より具体的なケアリングを理解していた．このことは，ケアリングの重要なスタートであると考えられた．また中澤[24]のコミュニケーション演習後のレポート内容と古田[25]の実習後のプロセスレコードの内容の違いから見ても実際に臨地での体験がケアリング認識を促進させているといえる．さらに磯邊[26]の訪問看護ステーション実習後の結果より，対象者が家族や周囲の人との関係の中で生活していることから家族に関するケアリングの要素が理解されていた．対象者のみに焦点をあてるのではなく，家族も含めたケアリングの重要性にも気づいていると考えられた．しかし谷口[27]は，学生はケアリングの過程のなかで「患者との葛藤」がケアリングの妨げになっていることを指摘している．対象者を理解するためには対象者の抱える健康問題について理解することが必須となる．したがってケアリングの要素としては「知識」[28]が重要であるといえる．臨地実習の中で対象者に対するケアリングの重要性に気づくためには学生自身の経験をあるがままにとらえ，そのことの意味を教員との対話，カンファレンスの場で適切に振り返りが行われることが重要であると考えられる．学生が直接的な経験を振り返り，表現し教員からの働きかけを受け止めながら経験の意味を探求していくこと[29]がケアリング認識を深め，有効にしていくと推測された．

結　　論

1．学生が講義・演習の中で気づいたケアリング要素は，対象者にとって重要な内容であった．講義をする教員のケアリングの視点が学生にしっかり伝えられており，ケアの対象者の特徴をふまえたケアリング内容が抽出されていた．

2．学生が学生－教員間で認識していたケアリングの内容は，学生が教員に対して求めるケアリングの内容であった．特に臨地実習においては教育方法の技術として教員の通常の行為であっても，学習の進行や学びの速度，自分たちの理解度，性格やタイプに合

わせた支援を受けるとケアされていると認識していた．

3．臨地実習での対象者との関わりにおけるケアリングについて学生が認識している内容は，ケアリングの基本になる内容であった．また対象者が設定されていることで，具体性を帯びており対象者の生活を中心にケアを考えることができていた．さらに家族へのケアリングも重要であると認識されていた．

文　献

1）荒川千秋，佐藤亜月子，佐々間夕美子　他：看護大学生における実習のストレスに関する研究，目白大学健康科学研究，３，61-66，2010.

2）大埆美樹，雑賀倫子，吉岡伸一：臨地看護学実習前後における看護学生の社会的スキルと共感性の関連，米子医誌，62，183-188，2011.

3）山本浩子，仲村もとゑ，森川千鶴子　他：老年看護学概論履修後に学生が捉えた「ヒューマンケアリング」の意味，日本看護福祉学会誌，17(２)，147-157，2012.

4）中澤明美，管沼澄江，西田陽子　他：ヒューマンケアの心を育む「看護コミュニケーション演習」の試み　課題レポートの分析にみる看護学生の獲得（第１報），東都医療大学紀要，１(１)，７-14，2011.

5）荒井晴美，大道玲子，嘉山悦子　他：多次元共感測定尺度を用いたケアリングに関する研究（第二報）人間関係の側面（共感）の経時的変化とケアリングに与える要因，三育学院短期大学紀要，37，43-60，2008.

6）渡部暢子，菅原晴美，工藤真弓：看護学生が指導者および教員から受けるケアリング体験，秋田県看護教育研究会誌，33(12)，７-12，2008.

7）白木智子：看護学生が臨床指導者から受ける肯定的ケアリング体験，看護展望，30(３)394-399，2005.

8）田村美子：臨地実習におけるケアリング教育－教員と学生の相互行為場面からの分析－，看護・保健科学研究誌，９(１)，41-50，2009.

9）山田知子，堀井直子，近藤暁子　他：看護学生の認知する臨地実習での効果的・非効果的な指導者の関わり，生命健康科学研究所紀要，７，13-23，2010

10）高室いずみ：臨地実習におけるケアリングを用いた指導のための教師の関わりの構造，神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録，31，107-114，2006.

11）谷垣静子，松田明子，宮脇美保子：教員は学生にケアリング教育ができているのか－学生の立場から見た臨地実習における教員の関わりについて－，Quality Nursung，９(12)，34-39，2003.

12）木村美智子，杉山敏宏：臨地実習をとおして体験したヒューマンケアリングと課題，ヒューマンケア研究学会誌，４(１)，９-15，2012.

13）横山孝子，内山久美，大澤早苗：「看護者に必要な姿勢，態度」に関する学生の意識－４年課程１年次における基礎看護学実習Ⅰ終了後の調査から－，保健科学研究誌，２，87-94，2005.

14）谷口清弥，前川幸子：早期体験実習で看護学生が体験したケアリングの過程，甲南女子大学研究紀要，３，143-150，2009.

15）池田奈未，百田武司，植田喜久子：手術室における看護学生の学び，日本赤十字広島看護大学紀要，12，71-78，2012.

16）古田隆也：プロセスレコードによる学生－患者関係の特徴と学生支援，日本精神科看護学会誌，54(２)，116-120，2011.

17）水畑美穂，菊井和子：臨床実習における学生と患者の人間関係形成におけるプロセス，ベナー及びワトソン理論による分析，川崎医療福祉学会誌，15(１)，149-159，2005.

18）磯邊厚子：訪問看護ステーション実習で学生が学んだこと，京都市看護短期大学紀要，34，101-108，2009.

19）道廣睦子，中桐佐智子，谷田恵美子：看護大学生の看護実践能力尺度の信頼性・妥当性の検討と実習形態ごとの比較（２）ヒューマンケアの基本に関する実践能力を中心に，インターナショナル Nursing Care Research，６(１)，111-118，2007.

20）菊池きよ美，菱刈美和子，奥山啓子：ヒューマンケアの観点から考える　学生が実施した退院指導の学びと今後の課題－看護体験の意味づけ分析より－，共立女子短期大学看護学科紀要，７，29-38，2012.

21）Linda C. Hughes, Margaret M.: Caring Interactions Among Nursing Students: A Discipline Comparison of 2 Associate Degree Nursing Program, Nursing Outlook，46，176-181，1998.

22）安酸史子：ケアリング・サイクルの形成に向けて，

日本看護科学会誌，29(２)，38-44，2009.
23）前掲 22）
24）前掲 ４）
25）前掲 16）
26）前掲 18）
27）前掲 14）
28）Milton Mayeroff：ON CARING，1971，田村 真，向野宣之訳，ケアの本質 生きることの意味，34-38，ゆみる出版，2003.
29）安酸史子：看護教育におけるケアリング，Quality Nursing，７(１)，17-22，2001.

The Literature Study on the Importance Caring Contents As Perceived by Nursing Students

Tamae Sahara and Tsuyako Hosokawa
Nursing Faculty of Health and Welfare, Tokushima bunri university

Abstract Purpose of this literature study was to clarify what the nursing students' perception of caring in school and practice was and use basic data to analysis teaching methods in clinical practice.
We searched the Ityushi website for the keywords 'nursing students' and 'caring', and retrieved 58 articles from the period 2003 to 2012. Of them, we analyzed 18 articles discussing about the caring factors as perceived by nursing students.

Result：１. Contents of caring in lectures and exercises were important for patients. The vision of caring teachers' lectures met exactly what the students expected.
２. In caring contents, students asked for support in their interaction with the teachers. Students perceive the caring as technology teaching methods, even in the act of ordinary teachers like progress learning, comprehension, and support in clinical practice.
３. Contents of caring the patients in clinical practice was percieved by students to be the basis for caring, and caring for the familiy was recognized as the more important.

Key words：caring, nursing students, practice